

Joetsu Symphony Orchestra 61st Regular Concert

上越交響楽団 第六一回 定期演奏会

ウェーバー 歌劇「魔弾の射手」序曲 (二八二二)

Carl Maria von Weber (1786-1826) : Der Freischütz

モーツァルト 交響曲第三五番二長調 K385「ハフナー」 (二七八二)

Wolfgang Amadeus Mozart (1756-1791) : Symphony No.35 D Major K385 "Haffner"

ビゼー「アルルの女」第一・第二組曲 (一八七二)

Georges Bizet (1838-1875) : L'Arlésienne

2008年3月15日(土)

18:00開場 / 18:30開演

リージョンプラザ上越コンサートホール

指揮：吉井俊哉

Conductor : Toshiya Yoshii

客演コンサートマスター：三溝健一

Guest Concertmaster : Kenichi Samizo

管弦楽：上越交響楽団

Orchestra : Joetsu Symphony Orchestra



©後援・主催等

楽譜：トヨタミュージックライブラリー

主催：上越交響楽団

ごあいさつ

上越交響楽団 団長

古海法雲



本日は上越交響楽団の定期演奏会にお越しいただきまして有難うございます。

今年で61回の定期演奏会になります。定期以外の演奏会もありますので、36年間で100回くらいになりましょうか。

音楽はいいですね。特に大作曲家と言われる人の曲は何度聴いても飽きないです。演奏する方から見ますと、毎週2時間半位ずつの練習で飽きるほど演奏しているのに、全然飽きが来ないのです。それどころか毎回毎回新しい発見があり、毎回毎回感動も新たに深まります。通り一片の練習よりも何回もの繰り返し練習が、ますます曲を好きにしてくれます。

今日演奏する曲は、世界中で何十年何百年にわたってどの位の数演奏され、どの位の人々が聞き、どの位感動して来た事でしょう。オーケストラ演奏を始めてわずかの人から大ベテランまで、演奏者になり聞き手になって親しまれてきた歴史が垣間見えます。

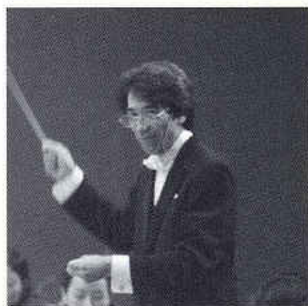
今日お越しの皆様と一緒にそのような歴史の担い手となって楽しみましょう。

どうぞごゆっくりお過ごし下さい。

常任指揮者

Toshiya Yoshii

吉井俊哉



1959年高田市(現上越市)に生まれる。

小学校では鼓笛隊でトランペットを吹き、城南中学校では吹奏楽部でチューバを吹き部長を務める。

高田高等学校に進学し器楽部に入部するとともに上越交響楽団に入団。

1978年明治大学工学部建築学科入学。

青山学院大学管弦楽団に団友として参加するとともに、上越交響楽団での活動を続ける。

明治大学を卒業後、上越市に建築技師として採用され市役所に勤務する。

1級建築士、建築基準適合判定資格者の肩書きを持つ。

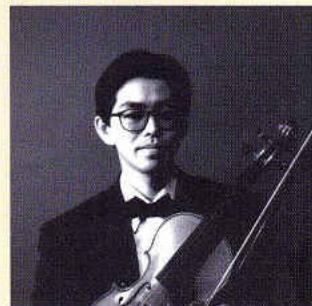
2002年上越市および韓国浦項市で開催された日韓フレンドシップコンサートにおいて、栗山和樹作曲「ソロバークッションとオーケストラのための「青邸の美しい庭」」の指揮を務める。

以降も常任指揮者として上越交響楽団の指導にあたり、2004年に上越市で再び開催された日韓フレンドシップコンサートの指揮を担当し好評を博す。

客演コンサートマスター

Kenichi Samizo

三溝健一



4歳よりヴァイオリンを始め、正岡紘子、天満敦子、山岡耕作の各氏にヴァイオリンを、東京音楽大学において井上將興氏にヴァイオリン及び室内楽を師事。この間、肥沼きよ、竹内邦光、松本紀久雄、汐澤安彦、丸山嘉夫の各氏にピアノ、ソルフェージュ、指揮法、音楽学を師事。

1986年に設立の弦楽合奏団「ENSEMBLE藝弦」では首席第2ヴァイオリニストとプロデューサーを兼任、92年には委嘱作品数曲をも携え北米演奏旅行を成功させる。92年に設立したピアノアンサンブル「室内楽

“E A U”」、99年に発足した室内楽団「音泉室内合奏団」ではコンサートマスターと音楽監督を兼任、そのレパートリーは小編成の室内楽曲から交響曲にまで及び、編曲も手掛けている。

ソロでは、ヴァイオリン協奏曲(ブルッフ、メンデルスゾーン、バッハ)、天満敦子氏と共演の2つのヴァイオリンの為の協奏曲(バッハ、ヴィヴァルディ)、オルガニストの保田紀子氏との共演(ヘンデル、ヴィターリ、ブニャーニの作品)、指揮者G.コラヤンニ氏との共演(ヴィヴァルディの協奏曲)、リムスキー=コルサコフの交響作品のソロ(シェエラザード、スペイン奇想曲)、その他にも多くの共演や作品・小品の既演が挙げられる。

一方「松本交響楽団」をはじめ関東甲信越の多くの市民・学生オーケストラにおいて常任或いは客演コンサートマスター、副指揮者、指導者としてその活動の発展に力を注いでおり、新潟県内では本団及び「柏崎フィルハーモニー管弦楽団」においてその任に就いている。

加えて、初心者から音楽家志望者に至るまで幅広く後進の育成にもあたっている。

足立シティオーケストラ／常任コンサートマスター、副指揮者。音泉室内合奏団／コンサートマスター、音楽監督。池袋音楽学院／講師。

“Gruppo Violini”／講師。



プログラム&曲目解説

カール・マリア・フォン・ウェーバー

Carl Maria von Weber (1786-1826)

歌劇「魔弾の射手」序曲



ウェーバーは19世紀初めに活躍したドイツ初期ロマン派の作曲家で、ベートーベン(1770-1827)とほぼ同世代です。歌劇「魔弾の射手」は1821年にベルリンで初演されました。ドイツ人によるドイツを舞台としたドイツ語の歌劇として初めての成功を収め、後のワーグナーへも大きな影響を与えました。本日演奏される序曲はオーケストラ演奏会序曲の定番です。序奏ではホルン重奏による有名な旋律が奏されます。主人公マックスの絶望の主題、クラリネットによるヒロイン、アガーテの主題が展開する主部の後、愛の力の強さを示すハ長調の主和音が高らかに響き終結します。

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

Wolfgang Amadeus Mozart(1756-1791)

交響曲第35番ニ長調K.385

「ハフナー」

第1楽章 アレグロ・コン・スピリト

第2楽章 アンダンテ

第3楽章 メヌエット

第4楽章 プレスト



モーツァルトは18世紀後半に登場した天才作曲家です。「ハフナー」交響曲はその名の通り、ザルツブルグの富豪ハフナー家の爵位授与の祝宴のために依頼され、1782年の7月から8月にかけて作曲されました。この間の1782年8月4日に彼はウェーバーのいとこであるコンスタンツェ・ウェーバーと結婚しています。作曲の経緯から全曲は輝かしく明るい気分で統一されています。

第1楽章 全員によって奏されるニ長調の主音「レ」から華やかに展開するソナタ形式の楽章。

第2楽章 緩徐楽章ではあるが祝宴の音楽らしくさわやかさが感じられる。

第3楽章 力強いメヌエット主部と木管楽器による柔らかなトリオから成る。

第4楽章 モーツァルトの明るい音楽の典型といえる快速な音楽。

休憩

ジョルジュ・ビゼー

Georges Bizet(1838-1875)

組曲「アルルの女」

第1組曲

前奏曲

メヌエット

アダージェット

鐘

第2組曲 (ギロー編曲)

パストラル

間奏曲

メヌエット

ファランドール



ビゼーはウェーバーより一世代後、19世紀半ばに活躍したフランスロマン派の作曲家です。彼も「天才」と呼ばれた音楽家の1人で、9歳でパリ音楽院に入学。作曲だけでなくピアノ、オルガン演奏にも秀でていたとのことです。「アルルの女」はアルフォンス・ドーデによる悲劇の伴奏音楽として1872年に作曲されました。この中からまずビゼー自身により4曲が演奏会用組曲として編曲され、さらにビゼーの死後、友人のエルネスト・ギローにより第2組曲が編曲されました。組曲の構成は原曲の劇付随音楽と直接の関係はなく、独立して演奏されることが通常です。本日は計8曲が続けて演奏されます。

第1組曲

前奏曲

民謡に基づく行進曲とゆったりした中間部から成る。中間部ではサクソフォンが奏されるが、管弦楽曲での使用としては最も早期のもの。

メヌエット

弦楽器による速いメヌエットと木管楽器による叙情的なトリオから成る。

アダージェット

弱音器をつけた弦楽による叙情的な曲。

鐘

鐘のテーマがホルン、ハープ、バイオリンのピチカートによって示される。

第2組曲

パストラル

冒頭は力強い序奏に始まる。中間部は木管楽器による民謡風の音楽である。

間奏曲

厳粛な旋律に続き、サクソフォンとホルンによる美しい旋律が示される。第2組曲ではこの曲のみビゼーの原曲がほぼそのまま使われている。

メヌエット

ハープとフルートによる旋律はビゼーの作品の中でも最も有名なものの一つ。この曲は歌劇「美しきパースの娘」からの転用である。

ファランドール

南フランスの祭りの音楽と第1組曲冒頭の行進曲が組み合わせられ、熱狂的に盛り上がり終結する。

出演者

客演コンサートマスター ●三溝 健一

第1ヴァイオリン

●上野 圭子 ●加藤 由香里
●小菅 宏造 ●小松 真澄
●田村 さやか ●土田 直美
●橋本 士郎 ●岩田 貴守＊
●奈良 秀樹＊

第2ヴァイオリン

●青木 由美子 ●桐原 雅史
●黒坂 瞳 ●洲崎 匡
●田中 教生 ●林 哲郎
●藤原 満 ●山川 美沙紀
●綿貫 綾音 ●本間 久貴＊

ヴィオラ

●稲田 由佳 ●佐藤 洋隆
●中村 逸郎 ●古海 法雲
●横田 裕祐 ●渡辺 みほ

チェロ

●石田 亮爾 ●上野 敦子
●桑原 直子 ●佐藤 慎悟
●下鳥 睦子 ●高橋 文子
●古川 純子

コントラバス

●秋山 雅央 ●飯塚 樹
●小柳 茂 ●吉崎 須賀子
●渡辺 光 ●松原 直之＊

フルート

●斉藤 孝久 ●丸山 恵理
●深石 薫

オーボエ

●羽賀 純子 ●橋本 直子
●皆川 正弘 ●皆川 未央

クラリネット

●斉藤 直美 ●富田 洋加

ファゴット

●宮口 弘明 ●吉越 梓
●内山 祐貴子＊

サキソフォン

●山川 智美＊

ホルン

●笹川 修一 ●須田 孝義
●森 真人 ●綿貫 英紀

トランペット

●神戸 正雄 ●菅野 徳嗣
●西山 岳志 ●梅澤 奈緒美＊

トロンボーン

●笠野 光雄 ●松田 彰英
●山川 伸一 ●松本 啓＊

パーカッション

●稲田 善智 ●藤澤 紀章
●小島 章子＊ ●綿貫 佳子＊

ハープ

●川村 文乃＊

＊は賛助出演ならびに団友

Joetsu Symphony Orchestra

次回演奏会のご案内

第62回定期演奏会

会場／上越文化会館

日時／2008年9月21日(日) 14時開演

プログラム

フンバーディンク／歌劇『ヘンゼルとグレーテル』序曲

ベートーヴェン／ピアノ協奏曲第3番ハ短調 (ピアノ：稲田由佳)

チャイコフスキー／交響曲第6番ロ短調 「悲愴」

団員募集のご案内

上越交響楽団では、団員を募集しております。

通常オーケストラで演奏される楽器であれば、
どなたでも入団できます。

素敵で愉快な仲間たちとすばらしい音楽を創りましょう。

団員一同心より歓迎いたします。

連絡先

事務局長／梅山 英行

TEL：025-525-8415

E-mail：umebflat@gmail.com

